

平成 27 年度 川崎市地域自立支援協議会相談支援部会について

〈活動報告〉

1 ガイドブックの活用について

制度改正等に伴う内容変更や指定相談支援事業所開設等の情報更新、特に改正が必要と考える部分の修正を行い、7月に第2版を発行しました。

ガイドブックの周知活用については、相談支援専門員初任者研修の受講生に配布し、講義の中で説明しています。

2 事業所の自己評価

評価実施シート（案）の評価項目や内容、チェック方法等について、6月に市内の一部の基幹相談支援センターに試験的な実施をお願いし、様々なご意見を頂きました。その後相談支援部会で検討し、「自身のふりかえり・気づきの機会」としての評価実施の目的と、その目的に沿った上での試験実施であるとの説明が不十分であったとの意見が出されました。

評価項目や内容については変更せず、チェック欄は5段階から「できている」を基準とした3段階に変更し、更には、過負担のない具体的な実施方法等を検討します。

実施時期として、平成28年度の実施を予定しています。

3 利用者評価

相談支援部会では、当事者の方のご意見を取り入れた利用者評価の項目にしたいと考え、部会構成員を通じて直接インタビューをさせて頂きました。評価項目や選択肢、回答のし易さ、しにくさ等についてのご意見を伺うことができ、今後さらなる検討を重ねた上で、平成28年度以降の実施を予定しています。

相談支援の質の向上を目的とした、事業所の自己評価、利用者評価であり、評価結果の活用方法等も含む相談支援事業の評価体制の構築を目指します。

なお、10月に研修部会との合同部会を実施し、情報の共有化を図りました。今後も研修部会と連携しながら取り組んでいきます。

平成27年度 川崎市地域自立支援協議会研修部会について

《活動報告》

1 「私たちがめざす相談支援者像【基本目標】(以下「従事者像」)図【案】について

- ・第1回全体会議終了後「従事者像」について、図案を作成するためのワーキンググループを立ち上げました。ワーキングでは相談支援従事者の支援がどこへつながるのかを協議し、最終的には「本人が希望する生活」につながることを共有・確認しました。
- ・ワーキングで作成した図案を基に、部会では以下の点を留意して、協議を行い、図案の完成に至っています。

○相談支援従事者の背景がそれぞれ違うという事を踏まえる。

○背景にある地図の意味

地域社会を表現。相談支援従事者は地域と個人双方に働きかける。個を地域で支える、社会基盤である地域を意識。

2 実務研修1・2・3について

・実務研修1

講義講師に対しては、演習と講義のつながりを意識した講義を依頼しました。

・実務研修2、3

前年度と同じ内容で実施を予定しています

3 研修体系の検討

- ・9月より、研修体系について協議を始めています。
- ・人材育成は研修だけに留まらないとの見解から、「研修体系」と共に「人材育成の全体像」を作成することとし、各ワーキングチームを立ち上げ、協議を行っています。

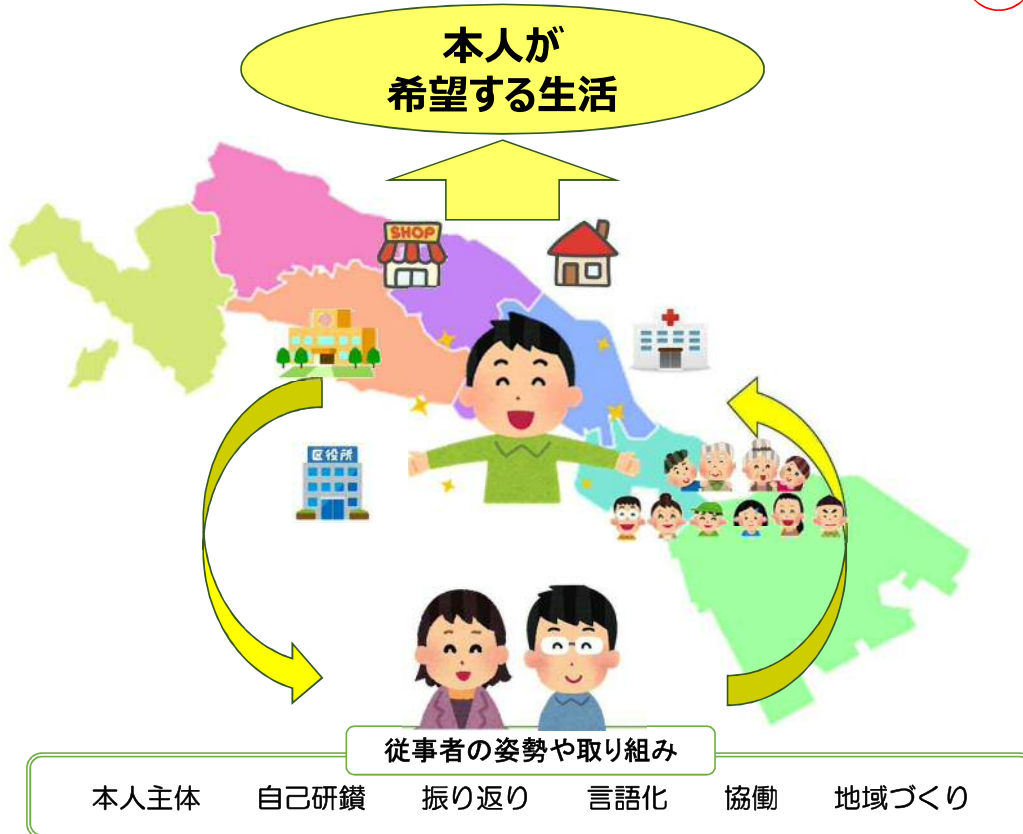
4 相談支援部会との合同部会開催について

- ・平成27年10月19日(月)相談支援部会との意見交換を実施しました。
- ・今後の研修内容を検討するため、研修部会で協議を重ねてきた「従事者像図案」「人材育成の全体像」「研修体系」などを検討段階の状態であることを伝えたくて、部会案提示し、相談支援部会からの意見を伺いました。

5 今後の研修部会について

- ・引き続き、川崎市の相談支援従事者研修のあり方及び市独自体系による相談支援従事者研修の内容について部会として協議を重ねていきます。
- ・相談支援部会との意見交換会から得られた意見を基に、「人材育成の全体像」「研修体系」については更なる協議を行います。今後、第2回合同部会を実施(予定)し、第3回全体会議で協議内容を報告します。

私たちがめざす相談支援従事者像【基本目標】 案



私たちは相談支援従事者としての役割を自覚し、本人の権利を守る支援を行います。

本人主体

- 本人の思いを受け止め、意思を尊重し、本人主体の生活の実現を支援します。

自己研鑽

- 相談支援従事者としての自分の役割を自覚し、実践に必要な知識や技術を習得し、それを体系立てて説明するための自己研さんを行います。

振り返り

- 「その支援を本人はどう思っているか」という視点を持って、日々の支援を絶えず振り返り、実践にいかします。

言語化

- 本人や家族、関係者への説明責任を果たすため、支援の内容を的確な言葉で表現します。

協働

- 支援ネットワークを築き、共に同じ目標に向かって支援を行います。

地域づくり

- 川崎を誰もが暮らしやすいまちにするために、地域をつくるという視点を持ち、社会に働きかけ、社会資源の改善や開発に取り組みます。